

平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

小さく産まれた赤ちゃんへの保健指導のあり方に関する調査研究

みずほ情報総研株式会社

■事業目的

低出生体重児は、通常に比べて医療的ケアが必要となることが多く、また発育・発達の遅延や障害、成人後も含めた健康に係るリスクが大きいことが指摘されている。加えて多胎児の場合は、子どもの数の多さに伴う育児上の困難も生じやすくなる。ゆえに、通常にもまして個々の状況に応じた、また多くの支援が必要となりやすい。

本事業は、低出生体重児、多胎児およびそれ以外の赤ちゃんの保護者へのアンケート調査を通じて、子供の健康・発育・発達に係る不安や支援ニーズ、生活状況等の実態を把握するとともに、インタビュー調査等を通じて自治体等が低出生体重児や多胎児の家族に対して行う母子保健等の支援の好事例を収集し、その知見をもとに、母子保健事業で活用できる啓発資料を作成したものである。

■事業内容

「市区町村アンケート調査」

…インタビュー調査対象の候補事例の収集や、保護者webアンケート調査の依頼状を配布頂く協力自治体の確保を目的として、Webによる市区町村アンケート調査を行った。

「保護者webアンケート調査」

…保護者が抱える子育ての大変さや不安の程度・内容、支援ニーズ等について把握し、出生時体重別や単胎/多胎の違いを分析する目的で、子どもの保護者を対象とする保護者webアンケート調査を行った。調査は、協力自治体に要請して、集団方式の乳幼児定期健康診査に訪れた子どもの保護者に、回答方法の説明を記載した依頼状を配布し、保護者には、依頼状を見ながらWeb経由で調査への回答を求める方法をとった。

「自治体等インタビュー調査」

…市区町村アンケート調査の回答自治体等の中から、低出生体重児や多胎児に特化した母子保健等の事業を行っている自治体等にインタビュー調査を行い、当該事業の概要を把握した。

「啓発資料の作成」

…上記による調査による知見や文献調査をもとに、母子保健で活用可能な啓発資料（①低出生体重児のいる家庭の支援に関する自治体保健師向けパンフレット「低出生体重児保健指導マニュアル」、②多胎児のいる家庭の支援に関する自治体保健師向けパンフレット「多胎児支援のポイント」、③多胎児の保護者向けリーフレット「ふたご、みつごを育てるあなたへ」の3種類）を作成した。

■調査結果

保護者webアンケート調査の結果によると、有効回答数は少ないものの、多胎児の保護者は、特に退院直後のころについて64.3%の回答者が「とても大変」と答え、「やや大変」を合わせると90%を超えるなど、「大変」との回答割合が著しく大きかった。子どもが単胎の場合は、出生時体重が小さい場合、退院直後や寝返りや離乳食を始めたころの不安がやや多い傾向にあるものの、成長につれて、その回答割合は小さくなった。

インタビュー調査からは、低出生体重児・多胎児は出生数全体からみた割合が小さく、その仲間づくりや集い等の事業を大規模でない自治体が行う場合は、広域的な活動を通じた複数自治体での共同実施等の検討が必要であることが示唆された。